

さわやかずいひつ

大道詰将棋

八段 米長 邦雄

最近は、大道詰将棋というのを、ほとんど見かけなくなった。

時たまあっても、善良なファンから金子をだまし取るうという悪質なのが多い。

けれども、世の中は広い。

いまだぎ珍しく、良心的な大道棋屋さんが存在するのである。

大阪のある盛り場に、毎日店を出している。毎日というのは、私の推測である。

私が大阪へ行く時は、必ずそこへ行ってみる。すると、雨の日も風の日も、同じおじさんが店を出している。

私は比較的対局が多く、大阪へ行く機会が多いので、多分、毎日出題しているのだと思う。

見るたびに問題が違っている。

それも、私が見たものは、すべて新作であった。

大道棋というのは、大別すると、三通りに分けられる。

持ち駒で分けるのだが、金問題、銀問題、香歩問題である。

どの問題も、簡単に詰みそりに見えて、実は相当に難解なのが多い。

秘手五百番と称して、大道棋は、全部で五百題あるとされている。実際は、八百くらいかと思う。

ほんの僅かの駒の配置が違うだけで、詰め手順が全く異ってしまふ。

似たような問題を、入れ代り立ち代り出す訳である。

だから、ウロ覚えで手を出すと、ひどい目に会う。

私などは、大道棋は、すべて自分で解いた経験があるから、見ただけで、おおよその見当がつく。

生れて初めてお目にかかったなら、一題詰ますのに、三十分はかかると思う。

だから、アマチュアの人では、まず勝ち味はないと思った方が無難である。

詰将棋そのものは、簡単に見えて難しいのだが、必ず詰む。

大道棋はインチキだという人が多くいる。

これは、詰将棋はインチキではなく、それを出題している者が問題なのである。

悪質な出題者が、善良な将棋ファンをだますのは良くない。

私も憤りを感じている一人である。さて、件の老人は、毎回新作を出す。

私も、それを必死になって詰ます。

これが、大阪での対局の楽しみの一つである。

とはいっても、実際に手を出すのではなく頭の中で考えるのである。

作品としてみても、優秀なのが多い。一回二百円としてある。

わざと、詰まない願で、玉を追いかけ廻し、相手のトン死をねらってみようかとも思

大道詰将棋



ったが、悪ふざけは慎しむべきと、一度も手を出したことはない。

私は、週刊誌に載っている詰将棋でもそうだが、局面をハッタとにらみつけ、次に目をつぶる癖がある。

そうすると頭の中に、その局面が浮かんで

くる。

それから詰ましかかる訳だ。

なぜそうするかというと、人の読んでいるのをノゾく時に便利だ。

大道詰将棋なら、人だかりの中でなく、歩

きながら詰ますことができる。

電車の中で、詰将棋を解いている人を見かけるが、あれは目に悪い。

ゆられてるの上に、凝視しているからだ。

私は、最近乱視の眼鏡をかけている。

どうも、電車の中で、馬の新聞を読んだのが原因だと思ふ。

できれば、目を休めて、将棋を考えたいものだ。

この間、上図のような作品に出っくわした。

夜の九時ごろだったと思うが、当方は大分銘酎していた。

いつものように、ハッタと睨みつけた後、

フラフラと歩き始めた。

しかるに、頭の中に浮かび上ってこない。

しかたなく、引き返して確かめ、数十メートル行ってから、将棋手帳へ書き込む始末だった。

たいていは、二十分もあれば正解のみならず、作品の間違いの有無くらいまで分るはずである。

ところが、アルコールが入っているから、

棋力が低下している。なかなか詰まないの

ある。

翌日は、大阪で対局である。

いつもそうだが、軽く飲んで、ホテルに泊って対局に備える手筈になっている。

早く風呂にでも入って休みたいが、なんと

いっても、詰まないというのはシャクに触わる。

缶ジュースを飲みながら、酔いをさまそう

として、真面目な努力をしようとした。

相当難しい問題である。

こうなると、もう意地だ。詰ますまでは眠れない。

結局、十二時過ぎまでかかった。

ようやく詰まし終えてホッとしたが、今度

は眠れない。

酔いが醒めたのと、頭が妙に冴えてきたせいである。

翌日の対局は、寝不足も重なって、ヒドい目に会わされた。

皆さんも、将棋大会の前日には、どうか詰

将棋はお考えにならないように。

〈追記〉

苦勞させられた金問題は、何と、玉は1一

で詰み上げる。

手順に関しては、当方は一切関知しない。